

広野小学校 「学力向上実行プラン」

学習したことの定着率を高め、家庭学習や読書の習慣を育てる。

学力向上推進員 委員 校長 折目 泰子 教頭 河上 正信 研修主任 立石美佐子
教務主任 東 正明

折目 泰子



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ 課 題	漢字を正しく読んだり、文章を読んで内容を把握したりする力は身につけてきている。基本的な四則計算や数量・図形についての基本事項は身につけている。	①漢字を正確に書き、計算を確実に解き、自ら見直そうとする。 ②既習の漢字を使い文章を正確に書こうとする。	①学期末の漢字テスト・計算テストで80点以上到達児童の割合を、漢字・計算とも80%以上にする。 ②既習の漢字を使い文章を正しく書き、自ら見直しができるようにする。	・漢字・計算問題を繰り返し行い、間違いは訂正し復習する。 ・既習漢字を使った文章が書けるようにし、書いた文章は自分で読み返す。	○全教員が、漢字・計算問題のテストを実施し、間違いの多かった問題は補充プリントやドリルで繰り返し行い、基礎学力の定着を図った。 ○全教員が、日記を毎日チェックし、作文やノート指導も定期的に行った。その中で、文章の書き方に重点をおいて指導した。	①漢字テスト80点以上の児童の割合75% ・計算テスト80点以上の児童の割合79% ②作文や日記で既習の漢字を使おうとする意識が高まった。 自ら文章を読み返し、間違いは訂正する姿勢が見られた。
	漢字を正確に書けなかったり、計算間違いをしてしまうなどの細かいミスがある。また、時間がたてば忘れてしまう児童がいる。 図や資料、複数の文章を読み取り、それをもとに考え・判断する力が弱い。	○学習の課題に、漢字学習を取り入れたり、既習の漢字を表現物や生活の中で活用できるようにすることで、漢字力の定着・向上を図る。 ○単元末テストの中で間違いの多かった計算問題を復習し、計算力の向上と基本的な知識の定着を図る。 ○定期的にノートチェックを行い、必要に応じてコメントを記入し、正確な文章を書く能力の育成を図る。	○間違いの多かった漢字・計算問題や、既習の問題を繰り返し実施した教員の割合を100%にする。 ○日記・作文指導やノート指導を定期的に行う教員の割合を100%にする。		評価 B	次年度における改善事項 ・定期的に漢字・計算のテストを実施し、漢字や四則計算の基本的な知識や技能をより一層高める。 ・テストや宿題で、漢字・計算問題の見直しを行い、自らの間違いに気付く習慣を身に付けさせる。 ・計算を生活の中で活用できる方法を考える。 ・活動後の感想やお礼の手紙で既習の漢字が使えるように指導する。

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ 課 題	ボイストレーニングや音読学習を毎日行い、はっきりした発音で読めたり、授業や行事等の発表でも自分の考えを伝えたりすることができるようになってきた。	①読解力を高め、活用力を身につけ表現しようとする。 ②調べた事実や分かったことに自分の考えを付け加えて文章を書き、進んでみんなに伝えようとする。	①国語・算数の読解力テストで、国語は80点以上到達児童の割合を80%以上に、算数は70点以上到達児童の割合を80%以上にする。 ②ノートに自分の考えや授業後の振り返りを書くことができ、進んで伝えることができるようにする。	・2つ以上の資料やグラフ・表などを読み取ったり比べたりする活動や新聞を活用した学習を進める。 ・思考の過程を重視し、自分の考えを記述し、説明する活動を行う。	○全教員が、朝の活動や授業・宿題でボイストレーニング・音読活動を推進した。 ○全教員が、読み取りや言語活動を取り入れた話合いの工夫を行い、授業を進めた。 ・大切な語句や重要なポイントに線を引く、実物投影機を使い視覚化することなどで、読み取りの工夫を行った。 ・話合いの話し型を提示したり、ホワイトボード・質問カードなどを活用したりして話合いの工夫を行った。 ○児童の思考の過程を見取り、支援に生かしたり、話合いでの意図的指名を行ったりした。 ○活動の後には、必ず感想を書かせることにより、自分の考えや思いを具体的に書けるようになった。また掲示することで、書く意欲も高まりつつある。	①読解力テスト ・国語……83%達成 ・算数……67%達成 ②自分の考えやおもいをノートにまとめ、進んで発言する児童が増えた。 ③友達の考えを受けて発言する力が伸び、話合いに深まりが見られた。
	読解については個人差が大きく、読み取りの仕方や方法など、基本を繰り返し指導する必要がある。 自分の考えを整理して人に伝えたり、理由を説明したりする力が十分ではない。友達の考えや意見を聞いて自分の考えに生かすことが不十分である。	○読む活動を推進するために、ボイストレーニングや内容を考え音読集会を継続的に行う。 ○文章を絵や図、言葉等で表現する活動を積極的に取り入れ、キーワードや文章の要点をつかめるようにする。そのため、授業で思考の過程を大切に文章を絵であらわしたり、絵を文章にししたりする習慣づけを図る。 ○深まりのある話合いをするため、話合いの話し型を活用し、自分の考えを人に伝えたり、理由を説明したりする機会を多くとる。また、少人数学級のため、他学年や他校との合同学習等での話合い活動に留意する。 ○体験(校外)学習や交流学習を積極的に行い、人と人とのつながりを深めるとともに、活用力の素地を培う。	○ボイストレーニングや音読を推進した教員の割合を100%にする。 ○読み取るための工夫をしたり、言語活動を取り入れ話合いの工夫をしたりして、授業を進めた教員の割合を100%にする。 ○児童の思考の過程を見取り、話合いに生かしたり、ノート指導を行ったりする教員の割合を100%にする。 ○活動の感想やお礼の手紙などを毎回書かせる。		評価 B	次年度における改善事項 ・読解力を高めるためのボイストレーニングや音読を意識し、教材や内容を工夫する。 ・自分の考えを発言するだけでなく、友達の考えを聞き、深まりのある話合いができるように学習形態や話題を工夫する。 ・朝会や全校集会で発言する機会を増やし、テーマを設けて全校で話合い活動をする時間を確保する。 ・ノート指導を充実させ、発達段階に応じ自分の考えや思考の過程を記述する仕方を指導する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況	
よ さ 課 題	進んで課題や作業に取り組むことができ、宿題も忘れず行っている。 読書をするたびに記録することにより、自分の達成状況を知ることができ、読書賞をもらうことにより意欲的に取り組むことができた。	①意欲的に授業に臨み、自ら考えて課題を解決しようとする。 ②学年に応じた家庭学習の時間を確保し、行おうとする。 ③学年に応じた本を選び、1週間に60分以上の読書活動を行おうとする。	①進んで考えを発言する児童の割合を80%以上にする。 ②目標の家庭学習の時間を達成した児童の割合を、90%以上にする。 ③生活リズムチェックにより1週間に60分以上読書ができた児童の割合を80%以上にする。	・主体的・対話的で深い学びの授業が展開できるように、授業の導入や学習形態を工夫する。 ・家庭学習の課題を工夫し、家庭学習の充実を図る。	○学習課題の提示と学習の振り返りは、ほとんど毎時間行った。児童といっしょに学習計画を立て、児童が主体的に学習に取り組めるように心がけている。 ○家庭学習のチェックや声かけを行い、継続的に取り組めるように働きかけた。生活リズムチェック・学習ノート(高学年)を活用し、家庭学習の時間の確保について指導した。 ○読書の必要性を話し、学習に関連した本を紹介するなど児童の読書意欲を喚起した。	①進んで発言する児童の割合80%以上。全員発表できている学級が増えてきた。 ②宿題提出……90%以上達成できている。しかし、家庭学習(家での学習)となると、達成できているか疑問である。 ③読書……80%以上達成できている。学校ではよくできているが家庭での読書時間の確保となると十分ではない。
	指示されたことは行うことができるが、自ら考え進んで新しいことに取り組む態度は不十分である。 学童で宿題をする児童が多く、自宅で集中して学習する習慣が身につけていなかったり、学習時間の確保ができていなかったりする児童がいる。 家庭での読書習慣が少ない児童がいる。	○学習の課題や進め方を明らかにし、児童が見通しを持ち、主体的・対話的で深い学びのある授業展開を心がける。 ○「学習の手引き」を活用したり、学習ノートを使ったりして家庭との連携を図り、家庭学習習慣の継続の必要性和家庭学習の時間の確保を保護者に働きかける。 ○児童に読書賞を授与し、読書意欲をもたせるとともに、毎日10分以上の読書時間と週2回15分間の読書時間を確保する。	○学習課題の提示と学習したことの振り返りを毎時間行い、児童が課題解決する授業を展開する教員の割合を100%にする。 ○家庭学習課題のチェックにより、家庭学習の習慣を継続する必要性と学習時間の確保について、働きかけを行った教員の割合を100%にする。 ○「生活リズムチェック」や声かけにより、週60分以上の読書を推進できた教員の割合を100%にする。		評価 B	次年度における改善事項 ・児童が主体的に学習に取り組めるように、引き続き学習課題の提示と学習の振り返りを行う。さらに、見直しをもって学習を進めることができるように学習計画を立てる。 ・家庭学習の課題を工夫し、家庭での学習(学童を除く)の時間が確保できるように保護者等に働きかける。 ・週末の宿題に読解力を高める課題(文章問題や読書の感想等)を出す。 ・「1日10分、家庭で読書する。」ことを学校全体で重視して取り組む。

平成29年度 学力向上ロードマップ

